

第二次選定の検討対象種一覧 爬虫類・両生類 (案)

*要:要注意リスト掲載種、日本生態学会リスト100 IUCNワ-スト100

科名	学名	*	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
----	----	---	------------------	----

第二次の特定外来生物の選定作業が必要と考えられる外来生物

ソロコガエル	<i>Polypedates leucomystax</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	輸送物資への混入を防ぎ、未定着地域への拡散分布を防ぐように心がける必要がある。
コキ-コヤスガエル	<i>Eleutherodactylus coqui</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	ハワイ諸島をはじめ、いくつかの地域に非意図的に導入され定着している。直接発生を行い、水面がなくても繁殖できる特性を持つ。
ウシガエル	<i>Rana catesbeiana</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	昆虫、甲殻類、魚類等の様々な動物を捕食し、生態系を攪乱。食用としての流通がある。
キューバアマガエル	<i>Osteopilus septentrionalis</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)	ハワイ諸島、フロリダ、バ-ンソン諸島、コスタリカなどに侵入し、昆虫、カエルから鳥類までをも捕食する。

関係者に利用に当たっての注意を呼びかけるとともに、被害に係る知見等の情報の集積を図る必要がある外来生物

ワニガメ	<i>Macrolemys temmincki</i>	要	人の生命、身体に係る被害	カツキガメと同様に危険動物に指定されている。
ミシシippアカミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	在来のカメ類との競合のおそれがある。大量に飼育されており、規制によって大量に遺棄される可能性がある。
キハラガメ	<i>Trachemys scripta scripta</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	生態がミシシippアカミガメと同様で、やや多く流通しており、逸出個体がしばしば見つかる。定着してミシシippアカミガメと同様の生態系影響を引き起こす懸念がある。
クーターガメ(アカハラガメ)属全種	<i>Pseudemys</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	生態がミシシippアカミガメとやや類似しており、また比較的多く流通しており逸出個体がしばしば見つかる。定着してミシシippアカミガメと同様の生態系影響を引き起こす懸念がある。
チヌガメ属の3種	<i>Graptemys</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	コチヌガメ <i>Graptemys pseudogeographica</i> 、フトナチヌガメ <i>G. ouachitensis</i> (サビ-ンチヌガメ <i>G. a. sabinensis</i> を含む)、ミシシippチヌガメ <i>G. kohnii</i> の3種。生態がミシシippアカミガメとやや類似しており、また流通しており逸走個体がしばしば見つかる。定着してミシシippアカミガメと同様の生態系影響を引き起こす懸念がある。
ハナガメ	<i>Ocadia sinensis</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)、交雑	逸出個体がしばしば見つかるが、亜熱帯に分布し、南日本では定着のおそれがある。飼育下でクサガメとの交雑と思われる例があり、野外でも在来種との交雑のおそれがある。
チュウゴクスッポン	<i>Polodiscus sinensis sinensis</i>	要	生態系(競合・駆逐・遺伝的攪乱)	在来のスッポンとの交雑や競合のおそれがある。利用の実態等について把握をすることが必要。
アメリカスッポン属全種	<i>Apalone</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	<i>A. spinifera</i> は、アメリカ東部原産ながら、西海岸などにも定着。国内では、やや多く流通しており、温帯に産するため逸走個体が定着するおそれがある。
グリーンイグアナ	<i>Iguana iguana</i>	要	生態系(競合・植生破壊)	大量に取り引きされるが、きわめて大型になり持て余されやすく、遺棄された個体が頻繁に報告される。
ヒョウモントカゲモドキ	<i>Eublepharis macularius</i>	要	生態系(野生動物への病原体蔓延)	寄生性の原虫クリプトスポリジウム <i>Cryptosporidium</i> sp.に高い割合で感染しており、さまざまな野生爬虫類への媒介、蔓延が懸念される。この原虫は徳之島に生息する希少種トカゲモドキに対して致死性であり、致死率はきわめて高いことが知られる。
アフリカツメガエル	<i>Xenopus laevis</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	実験用等として、大量に利用されている。
ヒキガエル属の5種	<i>Bufo</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	ヨーロッパトビヒキガエル <i>Bufo viridis</i> 、チキスミトビヒキガエル <i>Bufo debilis</i> 、ナツヒキガエル <i>Bufo terrestris</i> 、ガルフコーストヒキガエル <i>Bufo valliceps</i> 、ロココヒキガエル(キャホンヒキガエル) <i>Bufo paracnemis</i> の5種。日本においてヒキガエル属が外来種となっている例は多い。これらの種はヒキガエル属の中でも輸入が比較的多く、主として温帯に分布する。